

科目名 (英)	医療連携演習 Health Care Coordination Practice	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	若林 秀治
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	前期
【授業の学習内容】							
<p>・医療連携演習では他の学科の資格がどのような資格なのか、相互理解を深め、将来職種間の連携を通して最良の医療を提供する医療従事者を指すに当たって必要な知識を養う科目である。</p> <p>・医療全体像の変遷に基づき、専門領域を異にする医療、福祉の職種が患者を中心に関与することが求められている。包括的に患者のケアを行うためにそれぞれの役割、責務について学習し、医療の現状を踏まえて連携のあり方について検討する。</p> <p>実務実績 若林 愛媛県立中央病院東洋医学研究所にて研修を受ける 神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科にて見学を行う</p> <p>資格 はり師・きゅう師</p>							
【到達目標】							
<p>&lt;具体的な目標&gt;</p> <p>①他職種の業務内容(見方、考え方、アプローチの仕方)を理解する。</p> <p>②チームで連携するために必要なことを説明できる。</p> <p>③医療の現場で求められることを理解し、他職種や患者様に貢献できることを説明できる。</p> <p>④現場で行動する判断軸を説明できる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	「考える力」を知る:物事を考える際の構造と方法を説明できる。
2回目	「社会」を知る:人口動態の変化や現在の社会保障費などの課題について説明できる。
3回目	「企業」を知る:社会人が置かれている状況を知り、どのような事を行っているのか説明できる。
4回目	「組織」を知る:組織構造を理解し、連携を進めるためのポイントを説明できる。
5回目	「チーム」を知る:チームが有効に作用するための要因を学び、説明できる。
6回目	「リーダー」を知る:リーダーシップとマネジメントの違いなどを学び、目的に応じてリーダーが取るべき行動を説明できる。
7回目	「自己」を知る:自分自身について知ることで、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
8回目	「働き方」を考える:自分が短期的・長期的に取りやすい行動を考え、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
9回目	「コミュニケーション」を考える:他のメンバーとの接し方を考え、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
10回目	「鍼灸師」を考える:鍼灸師の得意・不得意や他のメンバーからどう見られるのかを考え、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
11回目	「治療」を考える:治療者の視点とそれ以外の人の視点を考え、チームメンバーとして活動する際に注意すべきポイントを説明できる。
12回目	「他職種」を知る:チームを組む他職種のことを知り、仕事内容などを説明できる。
13回目	「共通言語」を知る:医療、福祉に関わるメンバーが協働するために必要な共通言語を知り、使い方を説明できる。
14回目	「ロールプレイ」で知る:会議等のロールプレイを行い、それぞれのメンバーの考えや感じ方に差があることを説明できる。
15回目	「関連職種連携」を知る:連携の具体的な内容を知り、協働に必要な意識や行動を説明できる。
準備学習 時間外学習	(目標①)授業終了後、学んだことや感じたこと・考えたことを振り返り、文章に書き留める。 (目標②)学んだことを自分事として捉え、普段の生活で意識して生活する。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
参考書:授業の際に紹介します	